

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	動植物酵素の異種宿主における可溶性発現技術の開発とそれらの有用物質生産への利用
研究代表者	浅野 泰久 (富山県立大学・工学部・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>応募者は、有用酵素の探索・開発・産業利用に関する分野で、世界的に優れた実績がある。本研究は、節足動物に新規性の高い構造と高活性を示す酵素を見いだしたことを契機にして、産業的に有用な酵素の探索・開発に関する基盤研究を、節足動物や昆虫など、これまで検討の対象とされて来なかった生物にも焦点を当てて展開するものである。また、産業化を目指した汎用性の高い可溶化技術の開発に関する提案も含まれており、世界の酵素利用の分野を先導する研究になると期待する。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>